

古墳時代にタイムスリップ!

桂東 No.8

前橋市立桂萱東小学校 5年2組 鹿沼愛樹

1. このテーマをえらんだ理由
歴史の博物館に行き古墳について興味を持ったので調べることにしました。

2. 調べたこと

① そもそも古墳とは?

今から1700~1300年前につくられたおはか。地いきを治めた有力者などがほうむられました。ちなみに大きな古墳はカのあるこう族がほうむられたと言います。

② 古墳がきす"かれた時代

古墳時代 → 3世紀半は"から8世紀初頭にかけての
約450年間!!

・前期... 3世紀半は"から4世紀後半まで。

・中期... 4世紀末から5世紀後半まで。
前方後円墳の巨大化のピークをおかえる。

・後期... 5世紀末から6世紀末まで。

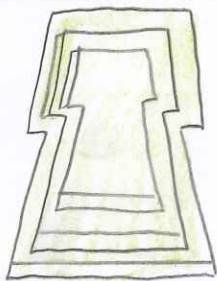
・古墳時代終末期... 前方後円墳がつかれなくなる7世紀

古墳の形



前方後円墳

古墳を代表する
墳形



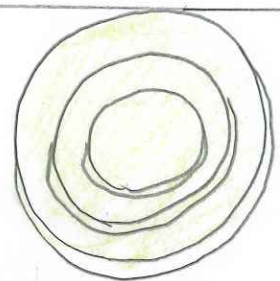
前方後方墳

前方後円墳の後円部を
方形にしたもの。



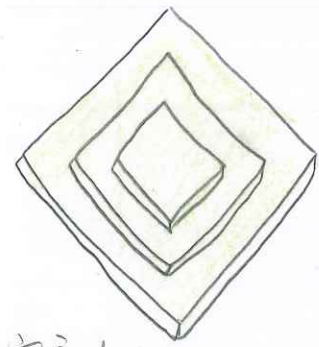
ほたて貝式
古墳

前方後円墳のうち、
方形の部分が
いちじるしく短いもの。



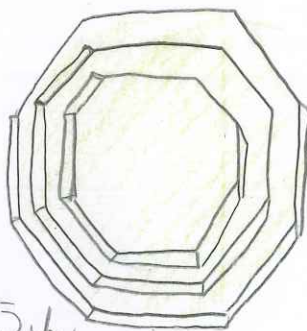
円墳

円形の古墳。
直径は10m弱から
100mこえまでさまざま。



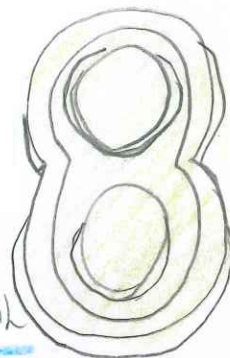
方墳

墳丘の立体的な
形状がピラミッドの
ような四角すい。



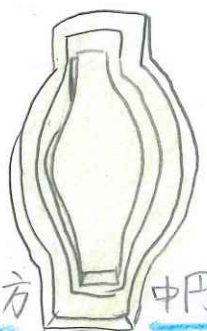
八角形墳

墳丘の平面形態が
八角形の
古墳。



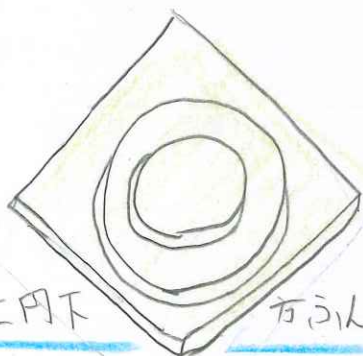
二基の円墳

2基の円けいを
れんけつした
形の古墳。



前方後方墳

円墳の西側に
方形の
とっさつ部を持つ



上方下

方墳上に円墳を
のせたこうぞう。

<群羊馬具ころうの特ちょう>

- ①大型の前方後円墳の数が多い
- ②死者をほうむる(石室や石かんなど)の質が高い
- ③副葬品がごうかてほうふにある

色々な形があるが、その中でも前方後円墳に注目!

→次のページへ

<前方後円墳について>

- ・ヤマト政権のい光を示すために作られた政治性の強いモニュメント
- ・きみょうな形をしており、世界に例がなく、日本オリジナルの形式。



・古墳時代には前方後円墳が約470基もさかされた。

古墳時代は大土木工事が続く時代だった。

(前方部)

亡くなった首長をカミにしよう格させ、社会がおだやかで平和であるようにとごいしを行った。

(後円部)

ふんぎょうの下に石室を設け、主たるひそう者をまいそう。

ちくぞうにはいくらかかたか?

大阪府のいんとくてんのうりょうの大せんりょうこふんの場合、のべ人数680万7000人が動員され、完成まで15年8ヵ月を要した。ひょうは今の金かくにして796億!! 全て手作業。まさにヤマトせいけん王のい信をかけた大工事。

だれが古墳にほうむられていたのか

ひそう者のほとんどが不明。天のうりょうで特定できるのはてんじ天のう・天むじとう両天のう。他わすかだという。

群馬県とヤマト政けん

かまつけんの
「上毛野国」

古墳時代の群馬県の地いき
東日本一の大国

農業けい営を行うために必要な自然かんきょうとしげんをほうふくに
持っていた群馬県は東国文化の中心地として非常に栄えていた。

ヤマト政けんとは...

3世紀半ば、朝せん半島南部の
かつしよ国が生み出すつそざいのかくほが目的
国内でつかうせいぞうできるのは

6世紀に入ってからで
とくせんてきに入れたつそざいを
いっかつ管理し、

前方後円ふんをきずいた

首長たちに再分配していくせいかんか「スムーズ」に
せいかをかくたできたのは、つそざいをい給する仕組みがあった

群馬県のほうふな自然かんきょうとしげんを
最大げんに生かして地いきをはつんこせよつとした
上毛野国の人々とせいかを広げるための強かなし点を求めている
ヤマト政かんの利害関係がいちし親みづな関係となった

渡来人と馬

馬は古墳時代の5世紀ごろ朝せん半島から渡来人というしよにやつてきた。

馬は古墳時代の人々の生活に大きな変化をもたらした。
人や物、しのい動うんはん、情報うの伝達、のうこうなど様な役わりを
たもった。

馬を飼育、はんしゅくさせるには専門的な技術や知識が必要であり、そのためにと来人をヤマト政かんがまねいたと考えられている。
ヤマト政かんは馬のいカを利用してせいカをかく大して
いこうとしたのだらう。

わたぬき観音山古墳

1450年のねむりから目覚める
末つくつの横穴式石室発見

・6世紀末半にさずかれた県内最後の前方後円墳

・1967年(昭和43年)、発掘調査

(場所)群馬県高崎市わたぬき町 (大きさ)全長97m

前方部幅63m 高さ9.1m 後円部幅61m 高さ9.6m

発掘調査が始められ、横穴式石室の入り口を、河原石が「うさいで」
いたため取りのぞいて中をのぞいてみると、
調査関係者は「ひごのうらるか」とまらなかつたという。
おびただしい数の副葬品が手つかずの状態で残っていたからだ。

多くの古墳の場合、内部があらわれぬすまれるが、
わたぬき観音山古墳の場合、石室の入口が「天井石で」
うさがれていたためぬすまれることなく残っていたのだ。
それまでこの古墳が造られるほんの少し前、はるな山が
大いんかを起こした。巨大な岩が利根川へと流れ出しすさまじい
状きょうであった。
こう族はあえてその石を石室のかべ材料に使って
横穴式石室を造ろうと考えた。

<特ちょう>

①見事な石組みの横穴式石室

(画期的な試み①)

常識だった天井石の幅の2倍もの天井石をのせた。
県内最大のげん室(い体が置かれる場所)がある
天井石は吉井町にある巨石(一番大きい石の重さは25トン)を6つ使っている

(画期的な試み②)

かべにつみあげた角閃石安岩を四角い形に加工しつみあげた

②ふん丘にならべられたはにわぐん像

観音山古ふんの中だん平坦面には人物はにわの群や
列が前方部にむかって続き、前方部北西側から
北東側中だん平坦面には馬形はにわが
例をなしておかれていた。

③石室から出土したごうかな副そう品

令和2年度にはわたぬき観音
山古ふんから出土した今での
はにわと副そう品は国ほうに
なる予定

鏡... 当事の鏡はうら面に様々な文様をほどこしてあるが
じゅうたい鏡という金鏡と全く同じものがかん国の
武ねい王のおはかから出てきた。

水びょう... よく似たものが中国のおはかから出てきた。
当事、アジアの中国、ちょうせん半島、
日本の間で物の交流があつたことが分かる

金銅すず付大帯

銅に金メッキをほどこした金銅せいの大帯、全国に3例しかない 観音山古墳の大帯はすずがつくじょうかなもの

金銅半球形かさリがなく

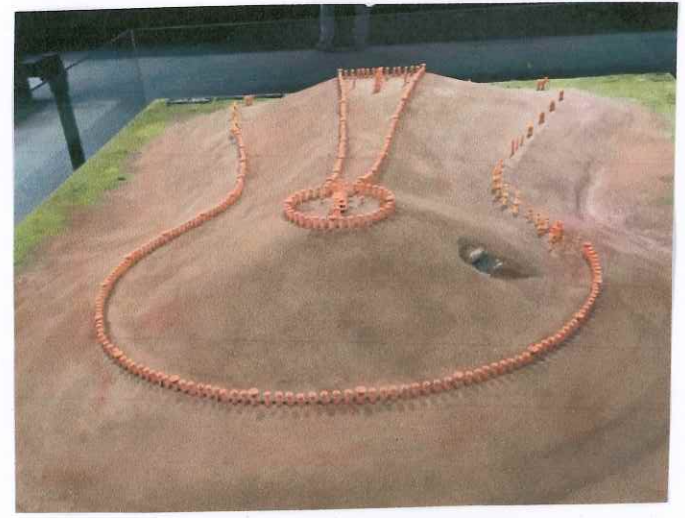
銅地に金メッキがほどこされぼうしのような形をしている王様の七がらの上に布につけてかけられていた

①石室



観音塚古墳 (高崎市)
群馬県内では最後に造られた前方後円墳といわれている。
巨石を用いて造られた石室は、見るものを圧倒する

②はにわがならべられた古墳



とくさんのはにわがきれいなならべられています。

②はにわ



→私の身長より大きいはにわ!!

③ じょうかなまいそう品



(銅水瓶びょう)



(じょうたいい鏡)



(金銅製歩よう付飾金具)



(金銅鈴付大帯)

< 現地を訪れて >



↳ 巨大な天井石!!

3. 3 気づいたこと考えたこと

古墳時代には、金銅すず付大帯の材質である金や銅、王様の七がらにかけられた金銅半球形かごり金がついた布、海をわたってきた馬やと来人、漢字などがよく見られていることが分かりました。

観音山古墳にまいらされたてみそう者は王様のみ、リッパな石室をさすいたのにどうしてただけだったのだろうか、つまり、いっしょに入らなかったのかなあ、王様がいれすぎていっしょにまいらされるのがおそれおおいと思ったのが不思議に思いました。

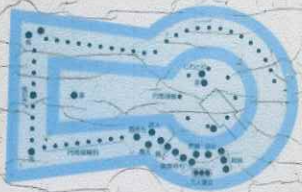
古墳時代の人々は王様のいれさを表すのに古墳の大きさを大事に思っていたことも分かりました。

実際に観音山古墳のうん丘に登りてみてその高さにびっくりしました。

古墳時代の歴史を学び、古墳を見るし点が変わりました。古墳はただのおほかでなく、王のしょうちょうとして、けんかのいれさを示すもの、全て人々の手で作られ1400年もの時を経て残されているもの、七がらだけでなくごうかなまいら品もたくさんいっしょに残されていたというふうに見えるようになりました。そしてその歴史が今につながっているんだなと思いました。

目をとじてイメージします。多くの労じうか、時間、費用をついやして完成した古墳。クレーン車もない時代に25トンもする巨石をどうやってつみあげたのか、あきらめることはなかったのか…。王様のためにと強い信念を持ち、本当にコツコツとつみあげてきた努力の結果だと思えます。自分自身にといかけます。私はそれほとまでに努力していることがあるのか。古墳時代の人々に習い、私も目標に向かて努力することを大切にしたいと思えます。

観音山古墳の埴輪



古墳の多い群馬県には、すぐれた埴輪がたくさん知られています。なかでも、この観音山古墳ならば、差別的にもりつばなものが多く発見されています。

墳丘の頂上部には、埴輪部に円周列で囲んだ中に家・馬・にわとり・天刀、前方部にも家や馬など、ここに葬られた皇族の貴族の居住の態を表現したといわれる埴輪が並べられています。

中段の平坦面には、石室の入口付近に、祭りを行う一組の盛装した巫女とその容姿と見られる三人童女、冠を戴く武人、食物を捧げる人からなる祭具グループ、それに続いて、冠を戴く武人、甲冑を穿けた武人、熊を食う熊天などの群像個立に刻み込まれ、それらと見られる。古墳時代の人々の生活や風俗、習慣などがうかがわれる埴輪が並べられています。

これらの埴輪は、石室から発見された副葬品などとともに、群馬の県の県立歴史博物館で展示されています。



色々な種類のはにわかならべられていたんだなあ...。はく力があります。

登ってみました。全て人々の手作業!! 信じられません。眺めはすばらしかったです。

4参考にした資料

- 東国文化副統本
- 古墳のひみつ
- 群馬のいせき4
- 群馬の古墳物語(下)
- ぐんま古墳探訪

参考にした場所・しせつ

わたぬき観音山古墳、群馬県立歴史博物館